



双塔

カトリック新潟教会

2018年5月
No. 360

聖母月

協力司祭 鎌田耕一郎

五月の爽やかな花と緑の季節に、キリスト信者の心のまなざしがおのずから美しき愛の御母である聖母マリアに向けられるのは自然である。聖母信心は子供達が最初に覚える祈りが「めでたし」の祈りである様に、信仰生活の最初から私達の心を神に向かって育み、超自然の養いと成長を豊かに実らせてくれるのである。

私達は例外なしに聖母マリアを心から愛さねばならない。それは神の御旨だからである。神は処女マリアを通じて救主イエス・キリストをこの世に与えることにより、聖母を救いの御業の協力者にすることを望まれたのである。神がその偉大な救済計画の中にマリアを選ばれた以上、私達が為すべきことはマリアを選ぶことではなく、母として迎えることだけなのである。従って聖母信心は単に子の母に対する甘い感情によってのみ支えられるものではなく神の御計画への意志的承諾に基くものなのである。それは聖母に於て輝き示される神の豊かな愛に対する讃美なのである。

私達は聖母を神の母として尊び、私達の母として慕わなければならない。教皇ピオ11世が「私達は親戚のエリザベトから『主の母』と挨拶されたお方、殉教者聖イグナチオから『神を生み給うた』とたたえられたお方、テルトウリアヌスから『かの女より神が生れた』とたたえられたお方を、神のさいわいな母、神の恵みの充満に富まれ、偉大な位にあげられたお方として尊敬するのである」と云われた様に、聖母が神の母たることは初代教会からの不朽不変の教えなのである。そして又私達は十字架の上から響く一つの声を聞くのである。「婦人よ、これがあなたの子です」。このイエスの御言葉はヨハネを通じてすべての人々に向けられたものであるということは変らざる教会の確信である。クリスマスみどりごの夜、みどりごを抱いたその優しい御腕は歎きの子等である私達の慰めと憩いの場でもある。聖母が私達の母であるということは豊かな愛といつくしみを注ぎ給うということの意味する。何故ならその子を愛さない母は在り得ないからである。

私達はあらゆる徳の鑑として聖母を仰ぎ、恵みの力ある仲介者として聖母により頼まなければならない。幼きイエスの聖テレジアは毎日のささやかな義務、ささやかな苦しみ、悩みを快く受け入れることによって神に到達しようという「小さき道」を教えた。現代人はけわしい神秘に満ちた道によってではなく、日常の平凡な出来事を通じて、謙遜に愛の業を成就しようとする困難ではあるが、真直で、平坦な道によって神を求めするのである。然しこの道は聖テレジアによって開かれたのではなく、「小さき道」を最初に歩んだものは疑いもなくナザレトの聖母マリアなのである。こうして聖母はその偉大な諸徳の輝きにもかかわらず最も私達に近い御方なのである。そして聖ベルナルドの祈りは聖母の御取次は全能であり、聖母の御保護を求めてすてられし者のないことを思い起させるのである。

聖ベルナルドは又「魂の小舟が苦しみと誘惑の嵐にあった時、歎きと憂いの闇に入った時”星を仰ぎ見よ、マリアを呼びまつれ”」とすすめている。人生は私達にとって天国に向う一回限りの旅路であり、航海である。私達は常にその旅路を照らす海の星である聖母マリアを見つめながら歩まねばならないのである。

風かおる五月、聖母像の前に跪き、祈り、ロザリオをつまぐりながら聖母を母に持つ幸いを思わなければならない。
(教区報 67号、昭和 39年 5月 1日)

カトリック新潟教会 月刊「双塔」 毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行/カトリック新潟教会 小教区評議会 広報部

〒951-8106 新潟市中央区東大畑町通一番町656 TEL:025-222-5024 FAX:025-222-5054